



229

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年9月22日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

直木賞作家・今村翔吾さん 活動の原点は 22日(日)=1、3面



直木賞作家の今村翔吾さん＝写真＝は執筆業以外にも、テレビの情報番組のコメンテーターを務め、さらには全国各地に足を運び、講演会やサイン会などのイベントも積極的にこなしています。

今夏、宮崎県椎葉村で「秘境の文筆家」プロジェクトを始めました。エンタメ作家志望の若者を募り、村が彼らを「地域おこし協

力隊」に委嘱。給与や住宅を保障したうえで、村に居住してもらって執筆活動に打ち込んでもらう、というものです。今村さんや編集者などがあれこれアドバイスをするなどして、自然豊かな村でエンタメ作家を養成し商業デビューさせようという試みです。

今村さん自身の話で言えば、小説の世界にのめりこんだのは小学5年の時。池

波正太郎の歴史大作「真田太平記」をむさぼるように読んだ記憶が忘れられないといいます。作家を夢見ましたが、家業を手伝わねばならず、一時はあきらめたこともありましたが、でも「あるひと言」で再び作家への道をまい進し、直木賞受賞という夢を叶えました。そんな今村さんの活動を支えているものは何なのでしょう。

論点 対策から10年 暴力団のいま 25日(水)=オピニオン面

北九州市に拠点を置く「工藤会」は、全国で唯一の特定危険指定暴力団です。福岡県警は2014年9月11日から組織壊滅を目指す「頂上作戦」に着手し、組トップらを次々に逮捕

しました。10年が過ぎた今も作戦は継続中ですが、異例の捜査が暴力団や他の組織犯罪を取り巻く環境にどのような影響を与えたのか、さまざまな視点から読み解きます。



ルポ米国 原発「安い電力」のはずが…

米南部ジョージア州で電気料金が高騰し、住民から悲鳴が上がっています。値上げの理由は「原発を造るのに力ネがかかったから」。そもそも原発は「安い電力」と言われてきたはずですが、なぜお金をかけてまで稼働さ

せる必要があるのか。地球温暖化が深刻化する中、発電時に二酸化炭素(CO2)を排出しない原発と我々はどう向き合っていくのか。かつて原子力の商用利用をリードし、今も世界最多の原発を抱える米国の現状を通じて考えます。

23日(月) 1、3面

特集 ワイド Z世代 親密な母子関係 24日(火)=夕刊2面



若者と母親の親密ぶりが目立っています。女子学生は洋服を選んでもらい、男子学生は手料理を撮影して「LINE」で見ってもらう、といった具合です。この夏、博報堂生活総合研究所が公表し

た「若者調査」によると、「尊敬している親」は「どちらかといえば母親」が6割超で、30年前に過半数だった父親の比率は下がりました。母親との親密ぶりから見えることや、背景を探ります。

竹橋の窓辺から

編集後記



皆さん、忙しい毎日でも最新のニュースを見落としていませんか？毎日新聞社では、1分でニュースへの理解が深まる新サービス「ZUKA」をスタートしました。紙面に掲載された図表を3行で解説、すきま時間に最新のニュースを把握できます。重要なテーマは図表や写真を使用した動画解説も！図表のダウンロードも可能で資料作成も楽々にお申し込みはQRコードから。(都築葵)



MAINICHI
毎日新聞